

令和7年度修了式校長挨拶

1年生・2年生の皆さん、こんにちは。今年度を終えるにあたり、お話をします。

1月、海外美術研修に同行する機会がありました。参加した生徒の皆さん、添乗員の方、現地ガイドの方。素晴らしい人たちに恵まれ、充実した研修を行うことができました。その際、自分が初めて海外旅行をした時のことを思い出しました。本日はそのお話をします。

大学3年生から4年生になる春休み。ある国に1か月旅行に行くことになりました。その時まで、飛行機に乗ったこともない私が、いきなり海外旅行をする決心をしたことに自分でも驚きがありました。海外旅行の経験が豊富な友人との二人旅であることが、安心材料だったと記憶しています。

旅行資金が豊富にあるとは言えない学生だったため、行き帰りの飛行機と最初の一泊分のホテルだけ予約するプランでの旅でした。現地で移動手段を探し、宿泊先も探す旅です。14人部屋での宿泊も経験しました。予約のない旅でしたので、なかなか計画通りに進めることができませんでした。前半の2週間が経過した時点で、友人が行きたい場所と私が行きたい場所の両方に行く時間がないことがわかりました。そこで、お互いの目的地を目指して、別々に旅を進めていくことにしました。2週間後、帰りの飛行機の出発地での再会を約束して、別れました。インターネットがない時代です。連絡手段が全くない状態での別れは非常に不安なものでした。

それまでも、様々なトラブルはありましたが、ここからは対応できるのは自分一人です。友人に頼ることはできません。実際色々なことがありましたが、そのうち2つの出来事を紹介します。

次の都市に向かうため、飛行機を待っていました。しかし一向に飛びません。言葉もよくわからないので、何が起きているのかも、よくわかりません。空港で研修をしているという若者のグループと知り合い、互いにつたない英語でお話をしたところ、遅れてはいるがフライトは実施されるとのことでした。ただ、実際飛んだのは、12時間遅れの夜中でした。目的地についたのが、午前2時。目星をつけていたホテルにバスで移動したのですが、扉は閉ざされています。困り果てた私を見て、親切な人が航空会社の人と交渉し、その会社の宿泊所に泊めていただくことができました。3人部屋で私ともう一人の男性が同室になりました。英語も含め、全く言葉が通じません。お互いに笑顔を交わし、眠りにつきました。とても寒い夜でした。ふと見ると、1つ開いていたベッドの上に、毛布が置いてあります。使いたいとは思いましたが、同室の方のことを考えると踏み出せません。その時、同室の方が起き上がり、毛布を手に取りました。「出遅れた」と思ったその時、その男性は、そっと私にその毛布を掛けてくれました。なんて優しい人だろう。本当に感動しました。同時に自分の小ささにとっても恥ずかしい思いをしました。

その次の都市に移動しました。Googleマップがない時代です。駅前で地図を買い、目的地に向かいました。しかし私は決定的に方向音痴なのです。ここまでの旅では、なんとかなっていましたが、ここで本格的に自分がどこにいるのか分からなくなりました。言葉も通じない外国の街で、このような状況になった時、皆さんならどうしますか。私は自分の目的地を紙に大きく書いて、道行く人にそれを見せて歩きました。指をさして方向を教えてくれる人が多くいました。その指示にしたがって、どんどん歩いていきました。その時一人の男性が自分もそこに行くから、一緒にバスに乗るようにと誘ってくれました。ほどなくバスは目的地に到着し、お礼を言って

その男性とは別れました。するとその男性は、道を渡り、向かい側のバス停の前に立ちました。その直後に到着したバスに乗り、男性は立ち去りました。その男性は、道に迷った私をわざわざ目的地に連れて来てくださり、その後、本来の自分の目的地へと向かったのだと思います。同じ状況で、見ず知らずの外国人に対して、自分だったらこんなことができるだろうか。この親切な行為に圧倒されました。

以上2つのエピソードをお話しました。共通しているのは、「利他の心」をもった人との出会いだっただけのことです。その人にとっては小さなことだったかもしれませんが、しかし、それを受けた側には、一生そのことが大きな思い出として残り、大きな影響を与えます。皆さんも「利他の心」を大切にしてください。他に良い影響を与えられる人になってください。

令和8年3月24日

市立札幌平岸高等学校長 中井 勝広